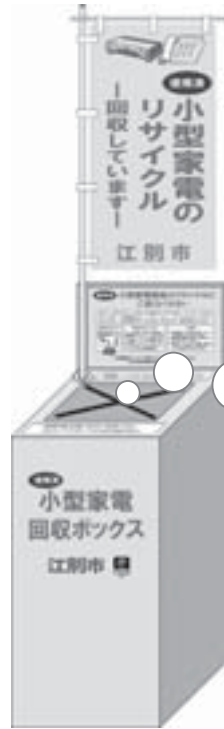


ご利用ください!

市内6カ所の公共施設に

小型家電回収ボックスを 設置します

9月1日(月)より新たに市内公共施設6か所に小型家電回収ボックスを設置し、使用済小型家電製品の無料回収を行います。また、既存の回収ボックスについても取り扱いが変更となります。



【回収できるもの】

回収ボックスの投入口(45cm×45cm)に入る最大辺が45cm以内の大きさの小型家電製品で、ご家庭で不要になったり壊れたりしたもの。デジタルカメラ、ビデオカメラ、パソコン、携帯音楽プレーヤー、小型DVDプレーヤー、電子手帳、電子辞書、電卓、ゲーム機、携帯電話、電話機(子機含む)、家庭用ファクシミリ、カーナビ、携帯ラジオ、トランシーバー、各種付属品(アダプター、接続コード、通信ケーブル、リモコン、充電機器、イヤホン)など。

【回収できないもの】

投入口に入らないもの。家

電リサイクル法対象機器(テレビ、冷蔵庫、冷凍庫、洗濯機、衣類乾燥機、エアコン)。CD、メモリーカードなどの記録媒体。事業所や店舗で使っていた小型製品。灯油ストーブなど灯油を使用しているもの、除湿器などでフロンを使用しているもの。電球、蛍光灯、電池類、ブラウン管式モニタ、こたつ、電気毛布類。

【注意事項】

袋や箱などは回収ボックスに入れないでください。個人情報が含まれるものは、あらかじめ消去してください。

【回収拠点】

市役所本庁舎1階(高砂町6)、市役所大麻出張所(大麻中町26・4)、水道庁舎1

階(秋ヶ岡1・4)、環境事務所(工業町14・3)、豊幌地区センター(豊幌686・10)、野幌鉄南地区センター(東野幌本町62・1)

【回収時間など】

▽市役所本庁舎・市役所大麻出張所・水道庁舎・環境事務所 8時45分～17時15分。

ただし、土曜、日曜、祝日、年末年始は回収しません。

▽野幌鉄南地区センター、豊幌地区センター 9時～21時。

ただし、月曜(月曜日が祝日のときは翌日)、年末年始は回収しません。

●既存のボックスについて

これまで市内家電販売店2店舗に回収ボックスを設置し

ていましたが、9月より取扱が変更となります。

継続/マツヤデンキイオンタウン江別店

これまで同様、店員にお声かけいただき引き渡してください。

廃止/ケーズデンキ江別本店

店舗独自の回収システムが開始されます。詳しくは、直接店舗にお問合せください。

【詳細】廃棄物対策課減量推進係 ☎383・4211

生ごみ堆肥化講習会



家庭から出るごみの減量化のため、生ごみ堆肥化講習会を開催します。今回の講習会では、「段ボール式容器」「密閉式容器」「コンポスター容器」の使い方のコツを中心に、生ごみ堆肥化容器の使用法とごみ減量について学びます。

日時/9月30日(火)10時～11時30分。

会場/野幌公民館研修室3号。

定員/30名。料金/無料。申し込み/9月26日(金)までに電話で廃棄物対策課へ。

【申込・詳細】廃棄物対策課減量推進係 ☎383・4211

ごみ・資源物 収集日カレンダー



9月にごみ・資源物収集日カレンダーを全戸配布します。9月末になっても届いていない場合は廃棄物対策課までご連絡ください。

なお、「分別の手引き」は今年度発行いたしません。次回は平成27年度に2か年使用として発行予定です。

【詳細】廃棄物対策課減量推進係 ☎383・4211



光る個性を一緒に見つける。

蒼樹大学絵手紙講座講師

おがさわら **小笠原** みなこ **美那子**さん

【プロフィール】

昭和5年10月28日生 江別市内在住、公民館などの絵手紙サークルの講師、「野幌絵手紙の会」会長を務めています。蒼樹大学の絵手紙講座や、土曜広場など、絵手紙の舞台上で日々、活躍しています。



小笠原さんの作品。この他の作品を背表紙にカラーで掲載。

筆から広がる美しい色彩

筆に顔彩がんさいという日本画に用いる絵の具をつけ、さらさら筆を走らせます。わずか15分ほどで1枚の真っ白な紙に、色鮮やかな世界が広がります。教室の中心に、小笠原美那子さんの笑顔があります。小笠原さんは、高齢者の生涯学習教室「蒼樹大学」や土曜広場の絵手紙講師のほか、9つの絵手紙サークルの指導などに18年間も携わっています。

絵手紙を書くきっかけ

小笠原さんは、日本画家の父の影響で、子どもの頃から絵と書道を勉強し、昭和61年に書道教室を主宰。しかし、書道を続けているうちに、段位や賞は勉強の結果で、実績を目的として競うのは、本来の姿ではないという思いが強くなりました。そんなとき、絵手紙の創始者、小池邦夫先生と出会います。自由に表現し、贈る相手へ気持ちを純粹に伝えることに感銘を受けたのが、絵手紙を始めきつかけでした。技術ではなく、自由なのが絵手紙の魅力。にじんだ線も個性になります。「絵手紙に失敗はありません、大切なのは書きたいと思う気持ち。それが絵手紙を生き生きとさせます」と小笠原さん。

心に残る絵手紙

たくさんのお絵手紙に出会ってきた小笠原さんが一番心に残っていること。半身麻痺のリハビリ絵手紙教室からのお礼の絵手紙といいます。病気や怪我の苦しみを乗り越えた人の絵手紙には、明るい絵や言葉が書かれています。「利き手が使えず、逆の手で不自由ながらも、前向きで明るい一生懸命に感謝の気持ち伝わってきます」と、思い出の絵手紙を取り出し小笠原さんは目を細めます。

子どもたちに教わる

小笠原さんは野幌若葉小学校で、卒業制作の自画像絵手紙の講師をこれまで6年間勤めています。「真っ白な紙を前にすると、最初のひと筆に迷い、手が止まってしまう子がいま。そんなとき、技術を教えるのではなく、本人が気が付いていない、キラリと光る個性を一緒に見つけるんです」。

小笠原さんは、来年3月に卒業を控える児童たちにも絵手紙を教える予定です。「子どもたちは大きな未来を持ち、大人には決して描けないのびのびとした夢のある絵を描きます。いいところを見つけてあげるためには、自分自身も磨き、勉強しなければ」と、絵手紙を通して輝く個性を日々、探しています。



旧町村農場で絵手紙展を開催

「みんなで実ろう会」展

入場無料

日時

9月3日水～9日火

10時～16時30分（最終日のみ16時終了）

会場・詳細

旧町村農場（いずみ野25） ☎ 383-7734

小笠原美那子さんと市内の絵手紙サークルの合同絵手紙展を開催。父と母へ送る絵手紙など、素敵なおメッセージを含めた絵手紙を出展します。